

self-org

1年後には壊される。
それが、このプロジェクトの条件であった。

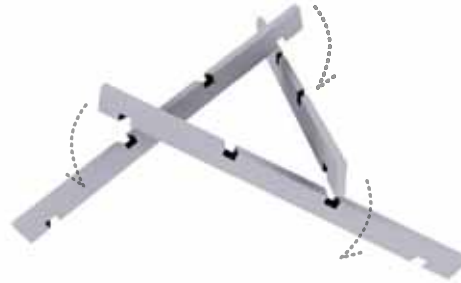
さらに、与えられた敷地はあくまでも暫定的なものであり、突然縮小される可能性もあれば、拡張される可能性もある、はたまた敷地そのものが変更される可能性すら否定できない。

そんな不安定な状況に柔らかく、したたかに対応する建築のあり方を考えた。
辿り着いた答えは、
単一の単純な要素で構成されつつ、
どのような複雑な空間にも対応できるフレキシブルなシステム。

このシステムを用いて
大学キャンパス内に、学生のための憩いの空間を設計した。

1. 相互依存モデル

材同士がお互いを支えあう相互依存型の構造モデルを用いる。
生物の細胞を模したこのシステムは単一の部材、単一のシステムによって複雑な構造体を構成することができる。

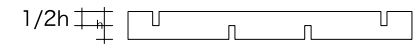


2. 任意曲面の生成方法

曲面は部材に空いた溝の深さを定めることで制御できる。
部材を任意に組み合わせていくと感覚的に空間を作っていくことができる。



凸面



平面

3. 施工プロセス

部材は簡単に持ち運べる。

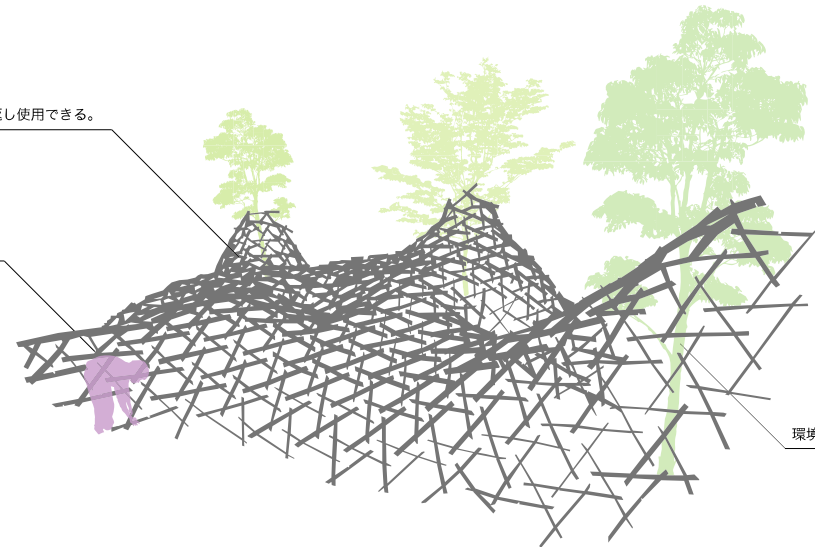


施工・解体に道具は一切必要としない。



釘などを使わないことで部材を繰り返し使用できる。

継ぎ足していくことで自由に拡張できる。



環境に合わせて形状が変化する。



